

施策 2. 未来を見据えた特色ある学びを推進する

目指す
姿

未来を見据えた町田ならではの学びの提供により、児童生徒が将来の夢や目標を持っている。

成果指標

指標	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小6	77.1%	小6	85.7%
		中3	65.9%	中3	75.3%

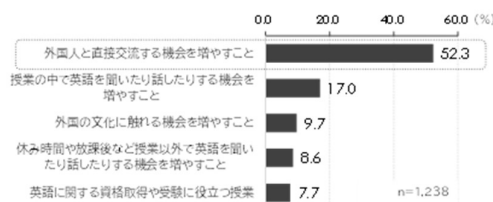
該当する 重点事業	重点事業
・重点事業 3	えいごのまちだの推進
・重点事業 4	STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育の充実
・重点事業 5	ICT を活用した学びの充実
・重点事業 6	キャリア教育の推進
・重点事業 7	町田市の未来の学び Lab

■現 状

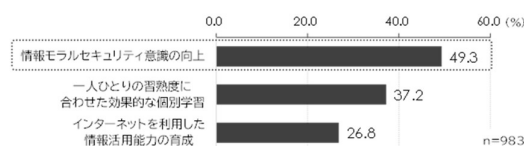
・保護者からの町田市の英語教育施策の認知度、期待度は比較的高く、外国人との直接交流のニーズが高いことが分かっています。また、タブレット端末等 ICT を活用した教育に力を入れていくことが望ましいと考える教員の割合が高く、情報活用能力に関するニーズも高くなっています。

(参考) 11 ページ「関連データ②学校教育へのニーズ」

▽児童生徒の保護者用アンケート調査結果
町田市の英語教育で最も力を入れていくことが望ましいもの(その他、無回答を除く)



▽教員用アンケート調査結果
ICT 教育の推進で、さらに力を入れて取り組むべきこと(上位3つのみ抜粋)



■ 課題

- ・子どもたちの現状の課題を把握し課題解決に向けた具体的な取組を進めるだけでなく、子どもたちの将来を見据えた学びを進める必要があります。具体的には、「えいごのまちだ」や「科学教育の推進」など、これまで重点的に推進してきた取組を社会環境の変化に対応しながら、さらに充実させるとともに、ICTを生かした学びや子どもたち一人ひとりの特性に応じた教育内容の検討など、これまでの取組にとらわれず、一人ひとりの子どもたちに寄り添った取組を推進していくことが重要です。

まちだ
教育コラム

4

デジタル化の現代において、学校は必要か！？

デジタル化が進み、知りたいことは検索すればあっという間に出てくる、説明してくれる動画もたくさんある、ビデオ通話で他者とも触れ合える、自分の興味・関心に合わせて学習できる世の中になりました。「あれ、学校に行かなくてもいいのでは…」と感じたことのある人もいないのでしょうか。確かに、全員が静かに座って、同じ問題に取り組んで、正解不正解だけを追い求めるのであれば…、自分の興味・関心のあることだけを学びたいのであれば…、学校は必要ないのかもしれませんが。

しかし、学校にはいつの時代でも変わらない良さがあります。それは、「多様性」と「リアルな体験」です。

まず、「多様性」についてですが、学校は、異年齢の子どもが集まる場です。また、地域や外部の方々も多く関わっており、学習する内容も多岐にわたります。多様な人、考え方、知見に触れ、自身の視野を広げるとともに、自分自身をより深く理解できる機会に富んでいます。

次に、「リアルな体験」についてですが、学校は、様々な経験ができる場です。考えや作品を発表する、行事など目標に向けてグループで取り組む、学校や学級の代表となって活動する、文化・伝統や職業を体験する…など、リアルな人と人との関わりを大切にしながら、本物に触れる機会が多くあります。「学校に行かなければ経験できなかった」、そんなことが皆さんにもあるのではないのでしょうか。

町田市では、いつの時代も変わらない学校の良さを生かしながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の更なる充実を図り、学校を新しい時代に必要とされる学びの場へと発展させていきます。

重点
事業

3

えいごのまちだの推進

目的

・習得した知識や技能を活用する機会を体験活動の中に設定することにより、自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや喜び、達成感を味わう経験を積み重ねることができるコミュニケーション能力の育成を目指したカリキュラムを構築します。

対象 児童生徒・教員

●属性

継続／発展

●所管課

指導課

概要

- 子どもたちが英語に慣れ親しみ、英語に触れることのできる環境を整え、英語によるコミュニケーションを積極的に図る態度やコミュニケーション能力の育成を目指し、体験活動を重視した町田ならではの英語教育を推進します。
 - 小学校放課後英語教室を開催します。(小2～小5)
 - スヌーピーミュージアム^{※1}校外学習を開催します。(小5)
 - イングリッシュ・フェスタ^{※2}を実施します。(小6)
 - Tokyo Global Gateway^{※3}校外学習を開催します。(中1)
 - プリティッシュヒルズ^{※4}英語移動教室を開催します。(中2)
- ※Tokyo Global Gateway校外学習とプリティッシュヒルズ英語移動教室は、2022年度時点でも希望校で実施していますが、各プログラム間の系統性や学習効果等をモデル校で研究します。
- ALT^{※5}を配置します。(小1・2:3時間、小3・4:18時間、小5・6:35時間)
 - えいごのまちだ事業支援員^{※6}を配置します。

デマンド サイドの視点

- ▶児童生徒：体験活動の中で、これまでに習得した知識や技能を活用する機会があり、自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや喜び、達成感を味わう経験を積み重ねることによって、英語を使ったコミュニケーションに対する前向きな意識をもつことができます。
- ▶教員：ALT やえいごのまちだ事業支援員の配置により、様々な授業実践をすることができます。

経営の視点

- ▶えいごのまちだ事業(「えいごのまちだ体験学習プログラム(仮)」「えいごのまちだ授業改善プログラム(仮)」)では、町田市の地域資源を生かした学校内外での体験活動の機会を設け、子どもたちが外国語や外国の文化に興味をもつきっかけづくりをします。

独自性の視点

- ▶「えいごのまちだ体験学習プログラム(仮)」は、小学校放課後英語教室(小2～小5)、スヌーピーミュージアム校外学習(小5)、イングリッシュ・フェスタ(小6)、Tokyo Global Gateway 校外学習(中1)、プリティッシュヒルズ英語移動教室(中2)と、小中学校を通じた系統的な体験重視のプログラムです。
- ▶「えいごのまちだ授業改善プログラム(仮)」は、ALT の配置(小1・2:3時間、小3・4:18時間、小5・6:35時間)やデジタル教材の導入と、人的・物的支援による言語活動中心の授業改善の推進を図るプログラムです。

学び続ける 力の要素

- 自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや喜び、達成感を味わう経験を得ることにより、「人のよさを認める力」「ポジティブに考える力」を育成します。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
① イングリッシュ・フェスタ（小6） の実施		実施				
指標の達成状況 ▶	小学校 14 校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校
② Tokyo Global Gateway 校外学習（中1） の実施		モデル校 で実施	実施			
指標の達成状況 ▶	希望校	モデル校	希望校	希望校	希望校	希望校
③ ブリティッシュヒルズ英語移動教室（中2） の実施		モデル校 で実施	実施			
指標の達成状況 ▶	希望校	モデル校	希望校	希望校	希望校	希望校
④ えいごのまちだ事業支援員の配置		人員配 置検討	人員配置			
指標の達成状況 ▶	—	検討	6 名	6 名	6 名	6 名

この重点事業と 連動して推進する 関連事業

・基本方針Ⅳ-施策 1-重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」P126

- ※1 スヌーピーミュージアム…2019年12月に町田市南町田にオープンした「スヌーピー」を題材にした美術館のこと。2020年度から町田市立小学校の5年生が英語に関する意欲を向上し、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的に校外学習を実施している。
- ※2 イングリッシュ・フェスタ…「えいごのまちだ」事業の一環として、町田市立小・中学校で実施している子どもがALT(外国語指導助手)と英語でコミュニケーションをとりながら、体験活動に取り組み、異文化に触れるイベントのこと。
- ※3 Tokyo Global Gateway…東京都教育委員会と株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY が提供している体験型英語学習施設。江東区青梅と立川市にある。英語を使いたくなる「環境」、「プログラム」、「イングリッシュ・スピーカー」の三位一体で、徹底的に英語でのコミュニケーションを促す。
- ※4 ブリティッシュヒルズ…福島県にある、語学やイギリス文化の学習を目的とした施設。施設内ではゲームやフィールドワークを取り入れた英会話レッスンや、楽しく伝統文化を体験できる英語カルチャーレッスンが開講されている。宿泊施設やレストラン、売店もあり、滞在を通じて外国人スタッフと自然にコミュニケーションをとることもできる。
- ※5 ALT(外国語指導助手)…Assistant Language Teacher の略。英語の授業で日本人の教員を補助し、ネイティブの英語を教える外国人のこと。
- ※6 えいごのまちだ事業支援員…通称 MEPS(Machida English Promotion Staff)、英語授業の質の確保、向上を目的に小学校教員の指導、補助を行う専門員。町田市では、2018年度から質の高い英語の授業が実践されるように MEPS を配置している。

英語によるコミュニケーションを楽しもう！

子どもたちが教室を飛び出して、外国語の時間に学んだ力を活用して、話したり、聞いたり、読んだりする場を設定しています。より実践的で体験的な学びの場をつくとともに、子どもたちが英語によるコミュニケーションを楽しめるようにしています。

小学校 5 年生は、南町田グランベリーパーク駅にあるスヌーピーミュージアムで校外学習を行っています。

小学校 6 年生は、イングリッシュ・フェスタを行っています。外国のレストランでの食事やお土産の買い物など、外国に旅行に行ったかのような体験を味わえるような活動にしています。

今後も、子どもたちに、コミュニケーションを積極的に図る態度を育み、一人ひとりのコミュニケーション能力を高めることができるよう、取り組んでいきます。

えいごの校外学習 in スヌーピーミュージアム

スヌーピーミュージアム校外学習とは、外国語の時間に学んだ力を活用して、話したり、聞いたり、読んだりする活動を通して、英語に関する意欲を向上し、英語によるコミュニケーション力を高めることを目的とした校外学習です。

2020 年度から市内小学校全校の 5 年生が、スヌーピーミュージアムと隣接するまちライブラリーを訪問し、見学しながら英語のアクティビティを行っています。



© Peanuts Worldwide LLC

スヌーピーミュージアムでの様子



まちライブラリーでの様子

放課後英語教室

放課後英語教室は児童生徒の英語コミュニケーション能力を高めることを目的とした、実践型英語教室です。

放課後英語教室では、玉川大学と連携し作成した専用の教材を使用し、専門の講師と放課後の教室で英語を通じたコミュニケーションを学びます。

FC 町田ゼルビアの選手も出演する、体を動かしながら自然に楽しく英語をインプットする“運動型”英語学習プログラム「spoglish(スポグリッシュ)」を導入しています。英語の楽しさを味わい、児童の学習意欲が高まることを期待しています。

小学校 2～5 年生の英語を学びたい児童を対象に市立小学校全校で年間 12 回、無料で実施しています。



放課後英語教室での様子

イングリッシュ・フェスタ

えいごのまちだ事業の一環として、国際交流イベント「イングリッシュ・フェスタ」を実施しています。

イングリッシュ・フェスタとは、子どもが ALT (Assistant Language Teacher、外国語指導助手) と英語でコミュニケーションをとりながら、体験活動に取り組み、異文化に触れるイベントです。「使う英語」の楽しさを実感することを大切にしています。



イングリッシュ・フェスタでの様子

重点
事業

4

STEAM教育の視点を取り入れた科学教育の充実

目的

・児童生徒の学びへの知的好奇心を高めるとともに、自ら問題を発見し、解決へ向けたプロセスや更なる疑問へアプローチする力と創造力、表現力の育成を行います。

対象 児童生徒・教員

●属性 継続／発展

●所管課

教育センター

概要

- 科学教育推進プラン※1を STEAM 教育の視点を取り入れた内容に見直します。
- 小学校・中学校科学教育センターでは、児童生徒が新たな知見を得られるような講座を開拓するとともに、運営体制の見直しを行います。
- 科学教育センターの学びを、各校へ発信していきます。特に、ICT を活用したプログラミング講座については、学校でも実施できるように教材の共有や活用方法を発信します。あわせて、科学教育センターのゲストティーチャー等の外部人材の活用についても、学校へ情報を発信していきます。
- 大学、高等学校、高等専門学校、企業等の外部人材と連携を図り、先端の科学や本物に触れる機会を多く設け、専門性の高い講座を実施します。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒: 先端の科学や学校の授業では経験できないことに触れることができます。また、様々な分野の体験活動により、論理的思考力や創造力、表現力を高めることができます。

▶教員: 科学教育センターの講座内容や教材を学校へ発信すること等により、学校の授業へ STEAM 教育の視点を取り入れる際に生かすことができます。

経営の視点

▶科学教育センターの講座内容については、STEAM 教育の視点をもって柔軟に変更していくことが可能です。

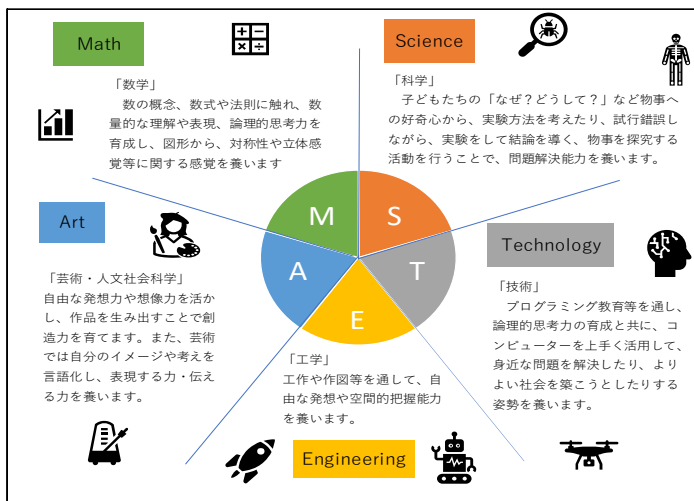
▶教員の研修の専門的知識の研修の場としても活用できます。

独自性の視点

▶市内大学、高等学校、高等専門学校、企業等の地域資源を積極的に活用し、それぞれの強みを生かした科学教育を展開することができます。

学び続ける 力の要素

○自ら問題を発見し、解決へ向けたプロセスや更なる疑問へアプローチする力や、創造力、表現力の育成から、「挑戦しようとする力」、「粘り強く取り組む力」が育まれます。



活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育推進プランの推進		現行プラン	STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育推進プラン			
指標の達成状況 ▶	—	実施・見直し	実施	実施	実施	実施
②科学教育推進アドバイザー※2の配置人数		配置				
指標の達成状況 ▶	—	1人	1人	1人	1人	1人
③小学校・中学校科学教育センター講座内容の充実		STEAM 教育の視点を取り入れた講座の実施				
		委託検討	一部委託化			
指標の達成状況 ▶	—	実施	実施	実施	実施	実施
④町田市大学・企業連携事業人材リストの活用		仕組みづくり	人材を活用した講座の実施			
指標の達成状況 ▶	—	検討・構築	実施	実施	実施	実施

この重点事業と
連動して推進する
関連事業

・基本方針Ⅳ-施策 1-重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」P126

※1 科学教育推進プラン…町田市立小・中学校の児童・生徒に対して科学教育を推進していくためのプラン。

※2 科学教育推進アドバイザー…町田市の科学教育推進のために、小学校及び中学校科学教育センターの運営や町田市立小・中学校に対して情報発信や助言を行うスタッフ。

まちだ
教育コラム

6

STEAM教育とは？

急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じてきている今日。

学校で学習している国語や算数、数学等の各教科や文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等で学んだ知識や技術を合わせながら、課題を見つけ、解決したり、新しい変化や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められています。

STEAM 教育は、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・人文社会科学)、Mathematics(数学)の頭文字をとった教育概念です。STEAM 教育は、各教科で学んだ知識や身に付けた技術に関連付けながら、実際の社会の中で起きている問題を主体的に発見し、解決することに取り組んでいく、教科等の横断的な学習です。

重点
事業

5

ICT を活用した学びの充実

目的

・教員が、個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業実践を行うことができるよう、教員の ICT スキル向上を図るとともに、BI ツール^{※1}を活用することで、教育データの利活用を図ります。

対象 児童生徒・教員

●属性 継続／発展

●所管課

指導課

概要

- ICT 授業支援員^{※2}を配置し、教員の ICT スキルの向上を支援します。
- ICT 授業支援員の指揮監督を担う ICT スーパーバイザー^{※3}を配置することで、事例・教材等の効果的、効率的な共有を図り、学校間の ICT スキル格差を解消していきます。
- モデル校を設定して教育データの利活用について研究し、成果を全校に広げていきます。
- BI ツールを導入し、教育データ(学校での学習状況や評価、学習ドリルソフトの取組状況、各種学力調査の結果、意識調査の回答、授業への評価等)の集約・分析を行います。
- ICT活用を進めていく上で必要となる情報モラル、デジタルシティズンシップ^{※4}について、学年ごとに目指す子どもの姿を定め、教員が指導できるよう研修を行っていきます。

デマンド サイドの視点

- ▶児童生徒:データに基づく分析結果を踏まえた効果的な教育を受けることができます。
- ▶教員:教員の ICT スキルの向上に関する支援を受けることができます。また、あらゆる教育データ(学校での学習状況や評価、学習ドリルソフトの取組状況、各種学力調査の結果、意識調査の回答、授業への評価、等)を集約・分析することで、児童・生徒の学力面での課題、各学校の授業の課題を明らかにし、児童生徒の実情に合わせた課題設定をすることができます。

経営の視点

- ▶国が進めている学習 e ポータルや MEXCBT^{※5}等の先進的な ICT 教育環境への移行を見据え、教員の ICT 活用スキルの底上げを図ります。
- ▶教材のデジタル化や学校間での共有が容易になり、教員の負担軽減につながります。
- ▶児童生徒や教員・学校の状況把握を客観的な根拠に基づき、より早く、的確にできるようになるため、環境の変化に対する対応力が向上します。

独自性の視点

- ▶BI ツールを導入し、教育委員会主導による教育データの収集・分析を行います。

学び続ける 力の要素

○学習履歴や教育データを基にした個別最適な学びにより、児童生徒の「自分を見つめる力」「挑戦しようとする力」が高まります。また、共同編集機能や各種アプリを活用した協働的な学びが充実し、児童生徒の「人の良さを認める力」「協力しようとする力」が高まります。

※1 BIツール…「ビジネスインテリジェンス(Business Intelligence)ツール」の略で、様々なデータを分析・見える化して、迅速な意思決定を助け、学校経営や授業、校務等の改善に役立てるためのツールのこと。

※2 ICT 授業支援員…教員の指導力・授業力を向上させるため、ICT を活用した授業の指導・補助を行う人材のこと。学校における ICT 活用に知見をもつ事業者に業務委託している。

※3 ICT スーパーバイザー…ICT 授業支援員の指揮監督、指導育成を担う人材のこと。

※4 デジタルシティズンシップ…デジタル社会において、デジタル技術を通じて、「社会に積極的に参画する力」のこと。

※5 MEXCBT…文部科学省(MEXT)が開発した Computer Based Testing(コンピューター使用型調査)のこと。児童や生徒が端末を用いてオンラインで問題演習に取り組むことができる。

活動指標と工程表

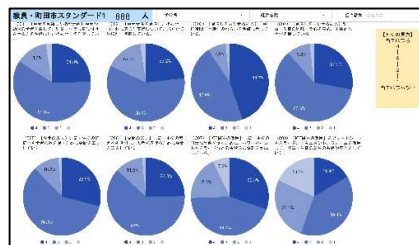
活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①授業における ICT 活用に自信をもっている教員の割合		ICT 授業支援員の配置				
指標の達成状況 ▶	43.0%	50.0%	57.0%	64.0%	70.0%	75.0%
②推進モデル校による教育データの活用校数 (小2・中2)		モデル校での実施				
指標の達成状況 ▶	—	4 校	4 校			
③授業改善のために BI ツールの教育データ分析結果を活用した教員の割合		市独自調査の分析結果提供				
			モデル校での実践事例の展開		実践事例の展開	
指標の達成状況 ▶	—	40.0%	50.0%	60.0%	70.0%	80.0%
④教員向け情報モラル研修の開催回数		研修実施				
指標の達成状況 ▶	—	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回

この重点事業と連動して推進する関連事業

- ・基本方針Ⅲ-施策1-重点事業 24「学校における ICT 環境の整備」P102
- ・基本方針Ⅳ-施策3-重点事業 42「学校支援体制の強化」P146

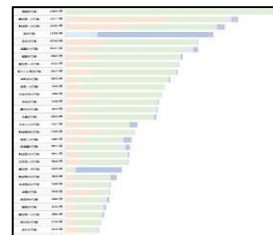


授業改善



ICTを活用した授業

BIツールで教育データを可視化し、分析



教育データの蓄積

- ・授業の振り返りやテストの結果
- ・学習ドリルソフト等の学習履歴
- ・各種アンケートや調査の結果など



重点
事業

6 キャリア教育の推進

目的

・様々な体験や他者との関わり、自分のことを見つめる機会等を設けることで、自分自身のこと
理解し、自分なりの学ぶ意義を理解することにつなげます。

対象 児童生徒

●属性 継続／発展

●所管課

指導課

概要

- 児童生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供することを中心とした『小中一貫町田っ子カリキュラム^{※1}「キャリア教育」』に基づき、中学生職場体験事業に加え、「CAPS・MESE^{※2}」（企業経営の意思決定シミュレーション）や販売体験、金融教育講座など、キャリア教育に関する学習活動や外部人材の活用等について、2023年度にまとめた「町田市版キャリア教育プログラム」を2024年度から小・中学校全校で実施します。
- 2024年度から、各学校の学習活動や外部人材情報を市内の各学校で共有し、学校の特色に応じたキャリア教育を小・中学校全校で実施することができるよう「町田市版キャリア教育プログラム」の更新を行います。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒：学ぶこと・生きること・働くことを通して、自分自身と他の人や様々な物・事との関係性についての理解を深め、主体的に判断し行動しようという意識を高めることができます。

経営の視点

▶各校の実態に応じて、多様な取組を実施することができます。
▶町田新産業創造センターや市内事業者との連携を図り、多種多様な主体とともに児童生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供します。

独自性の視点

▶一人1台端末を活用したキャリア・パスポート^{※3}（電子版）を引き続き活用します。
▶市内の学校の好事例や町田市の子どもの実態や地域性に応じた、町田市版キャリア教育プログラムを推進します。

学び続ける 力の要素

○様々な活動を通して、自分自身のことや他者との関わり等を考える機会をもち、「自分を見つめる力」、「ポジティブに考える力」を育成します。

- ※1 小中一貫町田っ子カリキュラム…規範教育、キャリア教育、健康教育（食育）の3つの領域について、どの小・中学校でも効果的な学習ができるように作成された小・中連続のカリキュラムのこと。
- ※2 CAPS・MESE…児童・生徒が、PC上で会社を経営し、価格や広告費など、商品販売に関する要素について話し合いで決定する意思決定シミュレーションプログラム。
- ※3 キャリア・パスポート…小学校から高校までのキャリア教育に関する活動について、児童生徒が自分の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分自身の変容や成長を自己評価できるように蓄積していく記録（ポートフォリオ）のこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①中学生職場体験事業の実施		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
②キャリア教育に関する学習活動や外部人材の活用等の学校の特色に応じたキャリア教育の取組の実施校数		実施				
指標の達成状況 ▶	小学校 28 校 中学校 9 校	全校	全校	全校	全校	全校

この重点事業と
連動して推進する
関連事業

・基本方針Ⅳ-施策 1-重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」P126

まちだ 教育コラム 7

キャリア教育で育む力

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」です。「キャリア教育」は、学校の教育活動を通じて、児童生徒一人ひとりの発達の段階に応じ、「キャリア」を形成させていく取組であり、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成することを目的としています。

キャリア教育で育成を目指す力は、「基礎的・汎用的能力」と呼ばれ、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つです。

キャリア教育の目的の達成に向けて、基礎的・汎用的能力を児童生徒が常に意識し、自己を見つめられるようにすることが重要です。

町田市では、「基礎的・汎用的能力」の育成の視点として、特に「自己理解・自己管理能力」の育成に重点を置き、児童生徒の発達段階に応じて「自分がしたいこと」(小学校低学年から)、「自分ができること」(小学校中学年から)、「社会とのつながり」(小学校高学年から)の3つを設定し、学校の教育活動全体でキャリア教育の推進を図ります。

今まで以上に児童生徒へ様々な経験やチャレンジする機会を提供すること、各教科の学習と「キャリア教育」との関連を図ることに重点を置き、各学校が特色を生かしたキャリア教育を充実させることで「自己理解・自己管理能力」の育成を目指していきます。

重点
事業

7 町田市の未来の学び Lab

目的

・学力向上や体力向上等の町田市の教育施策をより効果的なものとするために、教育分野に限らず様々な専門分野から子どもをとらえる研究を行います。

対象 児童生徒・教員

●属性

新規

●所管課

指導課

概要

- 児童生徒の学習上での課題に対して、教育分野の専門家だけでなく、子どもの学びに関する研究を進めている様々な分野の研究者に協力を仰ぎ、課題を深く調査研究できる体制を構築します。
- 従来の学力調査等の一般的なテストでは、子どもたちが「どこでつまずいた」のかは分かって「なぜつまずいた」のかは分かりませんでした。一人ひとりの子どもたちの「つまずき」の原因を探るため、教育委員会が主体となって調査研究をします。さらに、調査研究の結果や情報を教員が子どもたちの学習や学校生活全体での指導や支援に活用できるようにします。
- これまでの教育施策はそれぞれの目標ごとに別々の取組を進める傾向がありましたが、「学力と体力」、「学力とキャリア教育」など、教育施策間の相関関係や相乗効果に関する研究を行います。
- これまで町田市が進めてきたICT教育や協働(共同)的な学びは、今後の町田市の教育においても中心的な施策となります。そのため、ICTを活用した町田市立小・中学校の授業や協働(共同)的な学びを行うこれからの学校の在り方についても研究を行っていきます。

デマンド サイドの視点

- ▶児童生徒:自分自身の学習における「つまずき」が分かるため、その「つまずき」を踏まえて学習を進めたり、個別の学習支援を受けたりすることができます。
- ▶教員:調査研究から、一人ひとりの子どもたちの「つまずき」を把握することができるため、学習や学校生活全体での指導や支援について、研究結果とこれまでの指導実践を合わせて、より効果的な手法を選択することができます。

経営の視点

- ▶社会的な要請だけでなく、町田市の実態を基にした教育施策の展開に生かすことができます。
- ▶1つの施策に対して他の施策との相乗効果等、様々な視点で評価及び検証をすることで、より施策の効果を高めるよう事業内容を工夫することができます。

独自性の視点

- ▶子どもの学びについて、教育分野に関する専門家だけでなく、様々な分野の専門家と共同研究を行い、子どもたちの個別最適な学びにつながるような研究を行います。

学び続ける 力の要素

- 実証研究で得た知見は、子どもたちが学び続ける力を培うことができる教育施策を展開する上で、重要な基盤となります。児童生徒が自分の得意や不得意を知ることで、「自分を見つめる力」、「ポジティブに考える力」を高めていきます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①町田市未来の学び Lab 研究体制構築		研究体制の構築				
指標の達成状況 ▶	—	構築				
②児童生徒の「つまずき」の原因とその解消に関する研究		現状把握・研究内容の決定	実証研究	実証研究・効果検証	科学的根拠の確立・教育施策検討	「つまずき」に関する施策立案
指標の達成状況 ▶	—	研究内容決定	研究実施	研究実施・効果検証	根拠確立・施策検討	施策立案
③教育施策間の相関関係や相乗効果に関する研究（学力・体力向上、キャリア教育、協働（共同）的な学習等）			現状把握・研究内容の決定	実証研究	実証研究・効果検証	科学的根拠の確立・教育施策検討
指標の達成状況 ▶	—		研究内容決定	研究実施	研究実施・効果検証	根拠確立・施策検討

まちだ
教育コラム
8

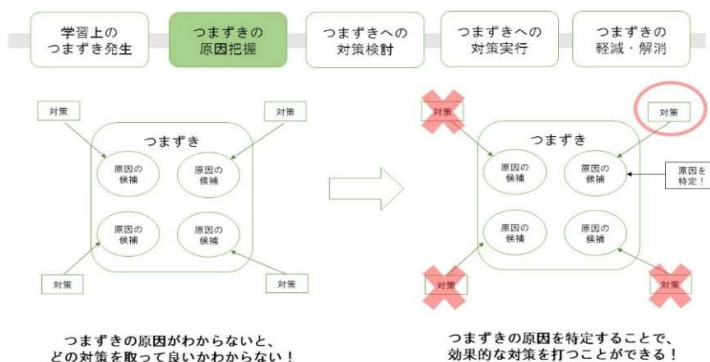
児童生徒の「つまずき」の原因を探る

子どもたちが勉強を「わかる」「できる」「楽しい」と感じることができるよう、長年にわたって、全ての教員が指導方法の研究を行い、様々な工夫をするなど努力をしてきました。それでも、学校の勉強についていけない、勉強が楽しくないと思う児童生徒がいます。

「なぜ児童生徒がつまずくのか」については、ベテランの教員でも答えが出ないことが多くあります。

広島県ではこの問いに対し、有識者の方々と開発した「広島県学びの基盤に関する調査」を行い、児童生徒の「つまずきの原因」を調査し、授業改善に生かしています。

町田市においても、子どもたちの「つまずきの原因」を明らかにし、子どもたちがより「わかる」「できる」「楽しい」と感じる授業へつなげていきます。



施策 3. 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する



児童・生徒が、体力づくりや食の重要性について学ぶことで、生涯を通じて健やかに過ごすための生活習慣を身につけている。

成果指標

指標	学校の体育の授業以外で、1日に1時間以上運動する児童・生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小5男子	49.2%	小5男子	54.0%
小5女子	28.5%	小5女子	34.0%		
中2男子	72.3%	中2男子	80.0%		
中2女子	52.7%	中2女子	59.0%		

指標	朝食を毎日食べる児童・生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小5	86.2%	小5	90.0%
中2	80.7%	中2	85.0%		

該当する重点事業	
	・重点事業 8 健康教育の推進
	・重点事業 9 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践
	・重点事業 10 楽しく運動する機会の充実
	・重点事業 11 学校給食を活用した食育の推進

現状と課題

■現状

・本市の児童生徒の体力状況を「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果で見ると、全国や東京都の傾向と同じく小中男女ともに低下傾向にあります。

(参考) 12 ページ「関連データ③体力の状況」

・本市の児童・生徒の朝食摂取状況を全国学力・学習状況調査の結果で見ると、児童生徒の朝食摂取率については、朝食を毎日食べていない児童が1割以上、朝食を毎日食べていない生徒が2割以上いる状況です。

(参考) 12 ページ「関連データ④児童生徒の朝食摂取状況」



■課題

・本市の傾向は全国・東京都と同じような状況ですが、体力状況の低下傾向を抑制する取組として、まずはスポーツや運動に対して楽しみや魅力等を児童生徒が実感できるような授業づくりをするとともに、学校内外に関わらず体を動かす機会を増やし、運動習慣参加者を増やしていく取組を一層充実させていくことが重要です。

重点
事業

8 健康教育の推進

目的

- ・児童生徒が自分の生活習慣(適切な運動、食事、休養及び睡眠)や心身の状態について見直す機会を健康教育に位置づけることで、健康的な生活習慣の実践力を育みます。
- ・朝食レシピコンテストを通して、食への関心が高まり、料理をすることの楽しさや食生活の大切さについて考え、必要な栄養やバランスの良い食事について理解を深めます。

対象 児童生徒

●属性

継続/発展

●所管課

指導課

概要

- 基本的な生活習慣を身に付けるためのプログラムを開発し、推進します。
- 国の体力調査の結果などから、小・中学校の児童・生徒の健康教育に関わる状況を分析し、小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」を改定し、食育、がん教育、生活習慣の改善に向けた取組を推進していきます。また、外部講師を活用した、がん教育を推進していきます。
- 「自分で料理することの楽しさ」や「食生活の大切さ」を改めて考え、必要な栄養やバランスの良い食事について理解を深めるために、町田市立小・中学校朝食レシピコンテストを実施します。
- 「朝食レシピコンテスト」受賞レシピを小・中学校の給食で提供します。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒:自分自身の健康へ関心をもち、健康的な生活習慣の確立に向けて行動しようとする意識が高まります。

経営の視点

▶町田市の児童生徒の現状を分析することで、町田市の実態に沿った食育、がん教育、生活習慣の改善を図ります。
▶町田市で収穫できる旬の野菜の活用方法を検討し、レシピに取り入れます。

独自性の視点

▶朝食レシピコンテストで受賞した作品は学校給食のメニューに採用したり、町田市公式 twitter や cookpad にレシピを掲載したりするなど、様々な媒体を通じて市民に広く推進します。

学び続ける 力の要素

○児童生徒が自分の生活習慣(適切な運動、食事、休養及び睡眠)や心身の状態について見直す機会を健康教育に位置づけることで「自分を見つめる力」が高まります。

活動指標と工程表

活動指標	現状 2022年度	工程表				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
① 基本的な生活習慣を身に付けるためのプログラムの推進		プログラムの推進				
		プログラムの開発		プログラムの見直し		
指標の達成状況 ▶	—	開発・推進	推進	見直し・推進	推進	推進
② 小中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」の改定・推進		カリキュラムの推進				
				カリキュラムの改定		
指標の達成状況 ▶	改定・推進	推進	推進	改定・推進	推進	推進

重点
事業

9

「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践

目的

・児童生徒が体を動かすことが「楽しい」、運動の仕方や身に付ける動きが「わかる」、基本的な動きが「できる」など、体育授業を通して運動に親しむ態度を育成します。

対象 児童生徒・教員

●属性 継続／発展

●所管課

指導課

概要

- 専門家や専門的な知識と技能をもつ人材と直接触れることができる「体育実技モデル派遣」を実施します。
- 個に応じた指導の充実につながるよう、小・中学校の希望校において「体育授業サポーター※派遣」を実施します。
- 手本になる動きや自分自身の動きを必要に応じて確認できるアプリを導入します。

デマンド サイドの視点

- ▶児童生徒：楽しく運動する経験を積み重ねることによって、運動の習慣化とともに生涯にわたって運動しようと思う意識が身に付きます。
- ▶教員：外部人材との連携により、子どもたちに対してこれまで以上にきめ細かい指導ができるようになります。

経営の視点

- ▶民間事業者や大学との連携を図り、事業者や大学のノウハウや強みを生かして体育授業の充実を図ります。

独自性の視点

- ▶個に応じた指導の充実につながる「体育授業サポーター派遣」を実施します。
- ▶手本になる動きや自分自身の動きを必要に応じて確認できるアプリを導入します。

学び続ける 力の要素

○楽しく運動する経験を積み重ねることによって、「挑戦しようとする力」、「粘り強く取り組む力」を育みます。

※ 体育授業サポーター…体育授業の中で、運動が得意な子どもや苦手な子ども等に対してそれぞれ積極的に支援し、個に応じた指導を行う授業補助者のこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①体育実技モデルの派遣（小学校）		大学等との連携・調整	体育実技モデル派遣			
指標の達成状況 ▶	—	連携・調整	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校
②体育授業サポーター派遣人数		大学等との連携・調整	体育授業サポーター派遣			
指標の達成状況 ▶	—	連携・調整	10 人	15 人	20 人	30 人
③アプリの導入校数		モデル校アプリの選定	アプリの導入・活用			
指標の達成状況 ▶	—	アプリ選定	全校	全校	全校	全校

この重点事業と
連動して推進する
関連事業

- ・基本方針Ⅳ-施策 1-重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」P126
- ・基本方針Ⅳ-施策 3-重点事業 42「学校支援体制の強化」P146



体育授業の様子



ゴール型ゲーム「町田ボール」の様子

重点
事業

10 楽しく運動する機会の充実

目的

・体育授業以外に様々な運動の機会を設定することで、生涯にわたって運動に親しむ子どもを育成します。

対象 児童生徒

●属性

継続／発展

●所管課

指導課

概要

- 各学校において、休み時間等における運動遊びの充実などに取り組み、気軽に楽しく運動する機会の充実を図ります。
- 全校が参加する連合体育大会※¹(小・中学校別)を開催します。
- 児童生徒参加型のスポーツイベントとして、町田市内を6つの地区に分けて「体力向上パワーアップDAY」※²を開催します。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒：体育の授業以外にも楽しみながら運動する機会があります。また、町田市立陸上競技場を会場とする連合体育大会では、本格的なアスリートと同じように陸上トラックを使用して運動することができます。

経営の視点

▶運動内容や人数など実施形態を工夫する等、様々な運動の機会を設定することで、生涯にわたって運動に親しむ子どもを育成します。

独自性の視点

- ▶「体力向上パワーアップ DAY」では、児童の実態に応じた各地区独自の運動プログラムを実施し、児童だけでなく地域の幼児も含め多くの子どもたちに運動の楽しさを伝えることができます。
- ▶小学校連合体育大会は、市内全小学6年生が集い、運動を通じて交流する一生に一度しかない貴重な経験になります。

学び続ける 力の要素

○学校内外での運動機会を設定し、運動を通じて交流することによって、「人のよさを認める力」、「協力しようとする力」を育みます。

- ※1 連合体育大会…町田市立全小学校の第6学年の児童及び町田市立全中学校の各学校から選抜された生徒が、陸上競技場という整備された環境で競技することで、他校との交流を深め、互いに認め合い、励まし合うことを通して、スポーツの町田市としての連帯意識を高める大会。
- ※2 体力向上パワーアップ DAY…子どもたちが学校・家庭・地域において、楽しく運動やスポーツに取り組み、生涯を通じて運動に親しむきっかけをつくるため、小学生だけでなく、地域の未就学児を対象とした運動体験イベント。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①一校一取組の実施校数		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
②体力向上パワーアップ DAY 実施 地区数		実施				
指標の達成状況 ▶	1 地区	1 地区	1 地区	1 地区	全地区	全地区
③連合体育大会（小・中学校別） 参加校数		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校

<p>この重点事業と 連動して推進する 関連事業</p>	<p>・基本方針Ⅳ-施策 1-重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」P126</p>
---	--



小学校連合体育大会



体力向上パワーアップ DAY

重点
事業

11 学校給食を活用した食育の推進

目的

子どもたちが、給食をはじめ、食に関わる学びや体験を通じて、食に関する知識を深めながら、自分に適した望ましい食選択、食行動を実践できる力を育めるよう、子どもたちの「なりたい自分」に寄り添った食育を推進していきます。

対象 児童生徒

●属性 継続／発展

●所管課

保健給食課

概要

- 中学校全員給食の導入を契機に、小学校・中学校9年間の学校給食を活用した「食育プログラム」を策定し、小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」や「(仮称)まちだ健康づくり推進プラン24-31」と連携しながら実践します。
- 地場農産物や旬の食材等を給食食材として活用しながら、児童生徒への魅力的な給食の提供や、食に関する学びや体験の提供について、様々な事業者が知恵と技術をもち寄り、ともに創るための提案制度など、事業者とのコラボレーションの仕組みづくりを進めます。
- 提案制度を立ち上げた後に、地場農産物を活用した町田オリジナル給食メニューの開発や、市内飲食店とのコラボメニューの開発、食育講座の開発など、事業者とのコラボレーションによる取組を行います。
- まちだ縄文キャラクター「まっくう」給食やホストタウンとなっている国の料理を提供する取組等、他部署と連携した学校給食の提供を行います。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒：給食をはじめ、食に関わる学びや体験を通じて、主体的に食に関する知識を深めながら自分に適した望ましい食選択、食行動を選択できる力を培うことができます。また、地場農産物を活用することで、子どもたちがより身近に、実感をもち、地域の自然、食文化、産業等について理解を深めることにつながります。さらに、食に関する事業を展開する民間事業者をはじめ、多様な人たちや児童生徒同士で協働する中で、様々な知識や考えに触れ、対話しながら、多角的・客観的に物事を判断し、創造的に解決できる力を培うことができます。

経営の視点

▶多様な事業者の知恵や技術を用いることによって、食事情に関する環境変化に対応しながら魅力的な給食づくりを行うとともに、食育の充実を図ります。

独自性の視点

- ▶小学校・中学校9年間の学校給食を活用した、小・中一貫の「食育プログラム」を策定することにより、組織的・計画的・継続的な食育を推進します。
- ▶より広く多様な事業者とともに魅力的な給食づくりや食育を創造することができる提案制度などの仕組みを構築します。

学び続ける 力の要素

○給食をはじめとする食育によって、「自分を見つめる力」、「挑戦しようとする力」、「人のよさを認める力」を育みます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①食育プログラムに基づく食育の実施		食育プログラムの策定	食育プログラムの実施		食育プログラムの検証・見直し	
指標の達成状況 ▶	—	策定	実施	実施	検証・見直し	検証・見直し
②事業者とのコラボレーションを行う仕組みづくり		仕組みづくり				
指標の達成状況 ▶	—	構築				
③事業者とのコラボレーションで実現できた給食・食育に関する取組件数		仕組みづくり	実施			
指標の達成状況 ▶	—	構築	1 件	1 件	1 件	1 件
④他部署とのコラボレーションによる給食の取組件数		実施				
指標の達成状況 ▶	3 件	3 件	4 件	4 件	4 件	4 件

まちだ 教育コラム

9

小学校・中学校 9 年間の学校給食を活用した食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、子どもたちの食に関する課題（朝食の欠食、栄養摂取の偏りや野菜嫌いなど）が多様化する中、中学校給食では 2025 年度までに、「全員給食・給食センター方式」による全員給食を実施し、小学校・中学校の 9 年間を通じて、子どもたちの感覚・感性に響く学校給食を提供します。

9 年間の全員給食が実現することを契機に、将来にわたり、子どもたちの望ましい食選択、食行動を実現できる力をより強化するため、「食育プログラム」を策定します。また、小学校・中学校 9 年間の学校給食を活用し、子どもたちの「なりたい自分」に寄り添った食育を実践します。食育プログラムは、次の視点を重視して策定します。

- ・なりたい自分づくりのための健康な体づくりに適した栄養素を知る。
- ・学校給食に郷土料理、行事食を取り入れることで日本の豊かな食文化に触れる機会や、地場農産物を活用することで地域の良さを知る機会を設ける。
- ・農産物の生産者の方との交流を通して、生産の工夫などを知る機会を設ける。
- ・農産物の栽培・収穫・調理等の体験活動を設ける。

町田市では、全ての市内の公立学校に通う児童生徒に対して学校給食を活用した、「食育プログラム」による組織的・計画的・継続的な食育を推進していきます。

施策4. 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む

目指す
姿

児童生徒が自分の考えと違う他人に対して理解し、豊かな心、思いやりをもっている。

成果指標

指標	「人が困っているときは、進んで助けている」の項目について肯定的に回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小6	87.4%	小6	93.0%
中3	85.5%	中3	91.0%		

指標	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目について肯定的に回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小6	72.4%	小6	80.0%
中3	76.6%	中3	80.0%		

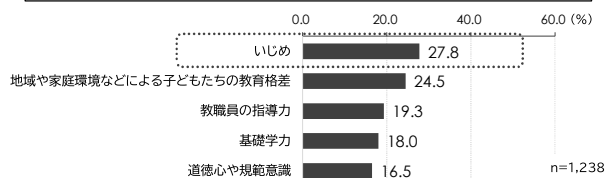
該当する重点事業
 ・重点事業12 「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進
 ・重点事業13 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実

現状と課題

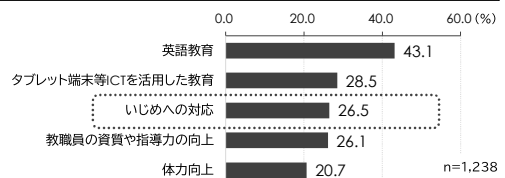
■現状

- 児童生徒の保護者は、子どもたちの教育や環境の中で「いじめ」を課題と感じている割合が高く、また、学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいと感じている割合も比較的高くなっています。
- 児童生徒の保護者と教員は、子どもたちが「思いやり・他人を大切にする心」が身に付いていないと感じている割合が1割以上となっています。

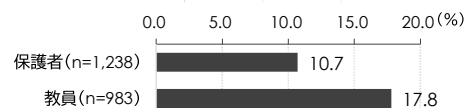
▽児童生徒の保護者用アンケート調査結果
 子どもたちの教育や環境について、課題と感じていること(上位5つのみ抜粋)



▽児童生徒の保護者用アンケート調査結果
 町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいもの(上位5つのみ抜粋)



▷児童生徒の保護者用・教員用アンケート調査結果
 「思いやり・他人を大切にする心」が“身に付いていない”と回答した割合(保護者回答と教員回答)



■課題

- 子どもたち同士の関係性や意見の伝え合い方などを、学校での教育活動全体を通じて学ぶ機会を増やし、教員もより意識を高めていくことで、いじめの予防につなげるとともに、いじめの問題に対して、児童生徒及び教員、保護者、地域が一体となって取り組んでいく意識の向上と体制づくりが求められます。

「子どもにやさしいまち」を目指して

子どもたちが楽しく健やかに成長していくためには、当たり前のように安全・安心な生活があり、拠り所となる居場所があり、自分の思いを自由に伝える機会があることが大切です。

このことは、「子どもの権利」として「子どもの権利条約」に定められています。今、大人である私たちに求められていることは、「子どもの権利」を尊重し、これからの未来を担う子どもたちのことをしっかりと考え、責任をもって守っていくことです。

この大人の責任を明確にするため、町田市は 2023 年度に「(仮称)町田市子どもにやさしいまち条例」を制定することを目指し、検討を進めています。この条例には、保護者、施設関係者、地域住民、事業者など、それぞれの立場で「子どもが幸せになるために、私たち大人は何ができるのかを考え、行動する」きっかけになってほしいという思いを込めています。

一方、子どもたち自身が、「自分には何ができるのか」を考えることも大切です。自分の思いを自由に伝え、“やってみたい”ことを実現しようとする経験は、社会に参画するための貴重な礎となります。

今、学校では授業や様々な活動の中で子どもたちが自分の思いを考えたり、その思いを友達や先生に伝えてみたりという経験を積んでいます。その中では、思いがかなうことも、かなわず悔しい思いをすることもあろうでしょう。

また、2022 年度から「町田市児童生徒フォーラム」を開催しています。このフォーラムでは、児童生徒の身の回りで起きていることや関心のあること等について、自分で考え、友達や他校の児童生徒と議論をし、自分たちで考えたことを意見表明しています。さらに、フォーラムでの内容を各学校での取組に生かしています。

このように、子どもたちが社会に参画していく上では、学校内外での体験活動により、様々な経験を得ることが大切になります。

そのため、学校を中心とした地域社会全体で子どもたちのことを支え、子どもたちを中心にした“子どもにやさしいまち”の実現を目指します。

「子どもの権利」とは

18歳未満の児童（子ども）の基本的な人権を国際的に保障するために、1989年の国連総会にて「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」が採択されました。

条約で定める権利を大きく分けると、子どもの権利は、大きく次の4つに分けられます。

生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること

育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること

守られる権利

紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られること

参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

(出典：公益財団法人日本ユニセフ協会ホームページ)

重点
事業

12

「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進

目的

いじめ問題の未然防止・早期発見・早期解決を図るため、学校・家庭・地域が連携し、学校の教育活動全体を通じて取り組みます。

対象 児童生徒・教員

●属性 継続／発展

●所管課

指導課

概要

- 町田市いじめ防止基本方針^{※1}に基づき、いじめ事案発生の際の組織的な対応の流れをまとめたフロー図を活用して、いじめ問題について組織的な対応を図ります。
- 児童生徒がいつでも投稿できる、いじめ匿名連絡サイト「スクールサイン」^{※2}や、特定のキーワードを児童生徒が入力した場合に検知する「キーワード検知機能」を活用した早期発見、早期対応につなげる取組を実施します。
- 「学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度を把握する心理検査」を小学校第5学年、中学校第2学年で実施し、児童生徒の悩みや学級の課題に適切な対応を図り、よりよい学校生活を送ることができるような集団づくりを進め、いじめ防止等の未然防止に積極的に取り組めるようにします。
- 東京都が6月と11月に実施しているいじめ防止強化月間「ふれあい月間」中に、いじめに関する授業やいじめ防止に関する取組、個別面談等を実施し、児童生徒がいじめについて考え、教員が児童生徒の状況を把握するとともに教員間で共通理解を図り、組織的にいじめや問題行動等の早期発見、早期対応を図ります。

デマンド サイドの視点

- ▶児童生徒：いじめを「しない」「させない」「許さない」という意識を高めることができます。
- ▶教員：アンケート調査や心理検査を通じた学級満足度尺度等の測定によって、教師がこれまで認識しにくかった子どもたちの実態を把握することができ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた具体的な対応にあたることができます。

経営の視点

- ▶ふれあい月間のアンケート結果や「学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度を把握する心理検査」を活用し、子どもたちの様子をあらゆる手段でとらえます。また、調査結果等を活用することで、早期に具体的な取組を進めていくことができます。

独自性の視点

- ▶いじめの早期発見のために毎月「心のアンケート」を実施します。
- ▶学校いじめ対応チームの定例会の実施を毎月1回位置づけ、「心のアンケート」の情報共有、事案の確認、対処方針の検討などを行い、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりを進めます。

学び続ける 力の要素

- 「学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度を把握する心理検査」や児童生徒がいじめについて考える取組などを通して、「自分を見つめる力」、「人のよさを認める力」を育成していきます。

※1 町田市いじめ防止基本方針…「いじめ防止対策推進法」及び「東京都いじめ防止対策推進条例」に基づき町田市が定めている基本的な方針のこと。

※2 スクールサイン…いじめなどの悩みや心配な友達のことについて、児童生徒が匿名で一人1台貸与しているタブレット端末やスマートフォン等から連絡できるサイトのこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①「スクールサイン」「キーワード検知機能」を活用した取組の実施		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
②心理検査を活用した取組の実施 (小5・中2)		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
③ふれあい月間におけるいじめに関する授業や取組、個別面談等の実施		実施				
指標の達成状況 ▶	—	全校	全校	全校	全校	全校

<p>この重点事業と連動して推進する関連事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針Ⅱ-施策1-重点事業 19「不登校児童生徒への支援の充実」P84 ・基本方針Ⅲ-施策1-重点事業 26「不登校児童生徒の学習環境の整備」P105
-----------------------------------	--

心のアンケート (小学校第4～6学年)

() 年 () 組 氏名

()

あなたの最近の出来事についてたずねます。場所は、学校内外のどこでもかまいません。だいたい1ヶ月以内のできごとについて回答してください。

1 あなたは、毎日楽しく過ごしていますか。(下の表の番号に○をつけましょう)

4 (楽しい) 3 (少し楽しい) 2 (あまり楽しくない) 1 (まったく楽しくない)

2 あなたは、クラスやグループのみんなで何かをするのは楽しいと思えますか。(下の表の番号に○をつけましょう)

4 (楽しい) 3 (少し楽しい) 2 (あまり楽しくない) 1 (まったく楽しくない)

3 あなたは、今、だれかからいやなこと(自分のものにいたずらされる、いやなことを無理にやらされる、仲間はずれにされる、だたかれたりけられたりするなど)をされて、つらい思いをしていますか。

() はい () いいえ

4 あなたは、今、いじめられている、または、いじめられているかもしれないという人を知っていますか。または、そのような人がいるということを知っていますか。

() 知っています・聞いたことがあります

() 知りません・聞いたことはありません

5 その他、あなたが、今、困ったり悩んだりしていることがありますか。

() あります ⇒友達関係・学習・クラブ・委員会・家族

その他 ()

() ありません

6 あなたの周りの人のことで、なにか心配なことがありますか。

() あります ⇒クラス・同学年・他学年・家族

その他 ()

() ありません

7 あなたや他の人が、周りの人に助けをもらったり、相談に乗ってもらったりしたことなど、心に残っていることがあったら書いてください。

図:「心のアンケート」(小学校第4～6学年用)

これは町田市教育委員会の作成したサンプルです。小・中学校、学年別に作成しています。各学校では、設問項目を独自に設けるなど工夫しながら活用しています。

重点
事業

13

児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実

目的

・自分の身の回りのことなど、自分に関係あることについて、自分の意見を述べたり、友達の様々な考えに触れたり、受け入れたりすることで、友達とともに考えを深めることができ、他人への理解や豊かな心を育みます。

対象 児童生徒

属性

新規

所管課

指導課

概要

- 市内の児童生徒の代表が集まり、フォーラムを実施します。自分たちの学校生活の中にある課題などについて各校で議論した内容を、意見交換したり、自分たち自身で何ができるかを主体的に話し合ったり、まとめた意見などを市内の学校へ発信します。各校では、発信された意見などを踏まえ、これまでの様々な活動と関連付けながらテーマに応じた取組を実施します。
- 日常の活動や学習の中で、全ての児童生徒が友達の様々な考えに触れたり受け入れたりしながら、学び合う機会を特別活動や各教科の単元で設定し、充実させていきます。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒：自分に関係する様々な課題について、自分自身でじっくり考えをまとめたり、他者と議論したりする機会があります。また、課題に対する議論を通して、解決策や方向性を自分たちで導き出し、今後の取組に生かすことができます。

経営の視点

▶(仮称)町田市子どもにやさしいまち条例第6条「参加する権利」を実現するために、自分たちの学校生活の中にある課題などについて、意見交換したり、自分たち自身で何ができるかを話し合ったり、まとめた意見などを市内の学校へ発信し、各校でフォーラムのテーマに応じた取組を実施することができます。

独自性の視点

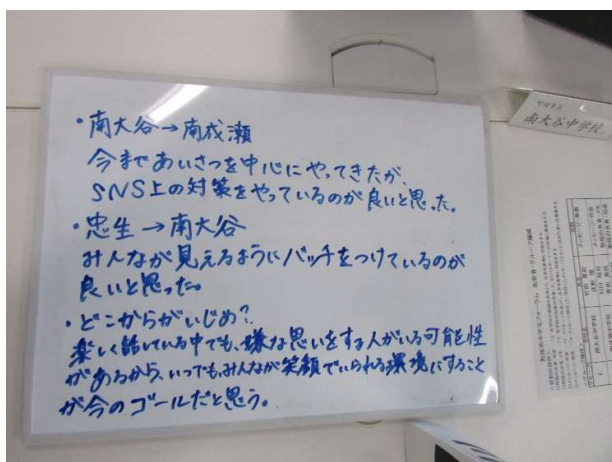
- ▶学校の実態に合わせた形で発信する機会を提供できます。
- ▶話し合った内容を市内の小中学校全校へ発信し、各学校の取組に生かしていきます。

学び続ける 力の要素

○フォーラムや日常の活動、学習を通して、「人のよさを認める力」「挑戦する力」などの学び続ける力の土台を培うことができます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①児童生徒フォーラムの実施		児童生徒フォーラム実施				
指標の達成状況 ▶	中学校全校	中学校全校	中学校全校・ 小学校各地区 代表 2 校	中学校全校・ 小学校各地区 代表 2 校	中学校全校・ 小学校各地区 代表 2 校	中学校全校・ 小学校各地区 代表 2 校
②「児童生徒が学び合う機会」の 教育課程への位置づけ（全学年）		見直し・設定				
指標の達成状況 ▶	—	全校	全校	全校	全校	全校



Cグループが作成したメッセージ

つくる・知る・寄り添う
～みんなで変わろう～

- ・つくる → いじめが起きない雰囲気や環境、良好な関係
- ・知る → いじめ、相手や自分、逃げ場があるということについて
- ・寄り添う → 加害者、被害者、傍観者にも寄り添っていく
- ・変わろう → 上の3つを実現することでみんなで変わっていく

子どもの権利のうち「参加する権利」に関する取組：
町田市中学生フォーラム(2022 年度)

施策 5. 学びのきっかけとなる機会を提供する

目指す
姿

市民が身近な場所で学びに触れる機会が充実している。

成果指標

指標	生涯学習活動を行う機会をもつことができた市民の割合(町田市市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		24.7%	41.5%

指標	本を読む市民の割合 (町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		59.1%	68.0%

該当する重点事業	内容
重点事業 14	まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実
重点事業 15	ことばの魅力を伝える”ことばの扉”事業の推進
重点事業 16	子ども・若者の読書活動の推進
重点事業 17	学びの入口の充実
重点事業 18	学びにつなげる図書館体験

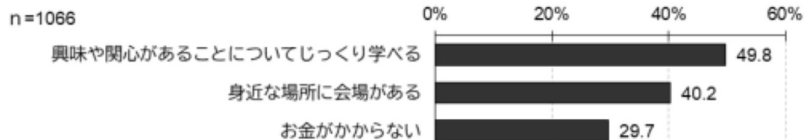
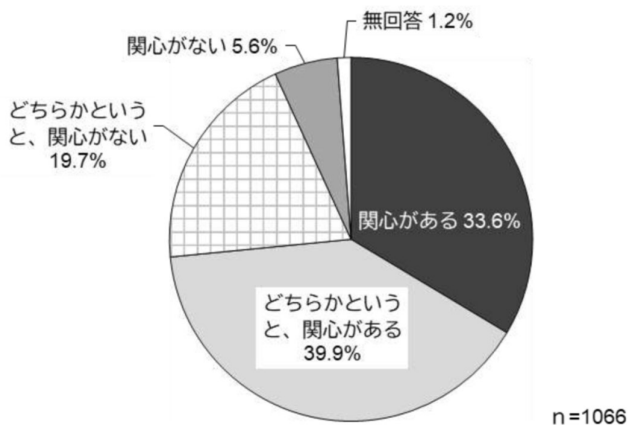
現状と課題

■現状

- 生涯学習活動に「関心がある」又は「どちらかという、関心がある」と回答した市民は7割以上と高くなっています。また、学習講座等への参加の際は、約4割の市民が「身近な場所に会場がある」ことを重視しています。

▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識アンケート調査結果「生涯学習活動への関心度」

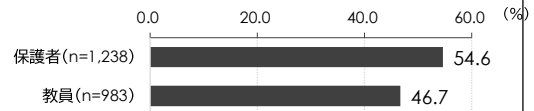
▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果「学習講座やイベント、展覧会などに参加する際、重視する点」(上位3位のみ抜粋)



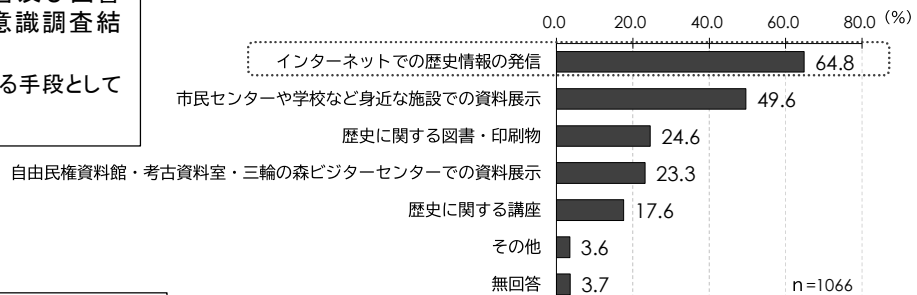
■現 状

- ・児童生徒が、地域の伝統や文化を大切に、郷土を愛する心が身に付いていないと感じている保護者及び教員は5割前後と高くなっています。
- ・町田市歴史を知る手段として必要だと思うこととして、「インターネットでの歴史情報の発信」が最も高くなっています。
- ・約4割の市民は本をほとんど読まないと回答しています。

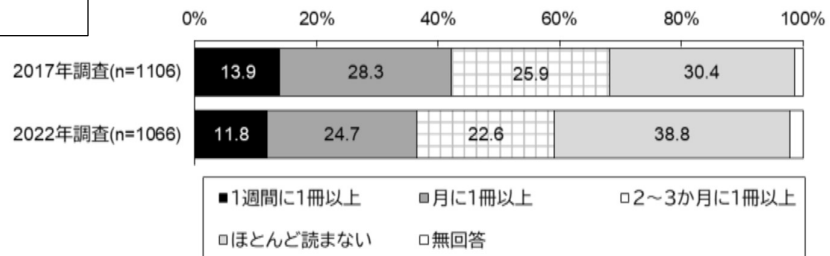
▷児童生徒の保護者用・教員用アンケート調査結果
「地域の伝統や文化を大切に、郷土を愛する心」が“身に付いていない”と回答した割合
(保護者回答と教員回答)



▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果
「町田市歴史を知る手段として必要だと思うこと」



▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果
「本を読む頻度」



■課 題

- ・人生 100 年時代を迎え、ライフステージに応じて生涯を通じて学びにアクセスできるよう、市民に身近な場所での学びの入口を提供することが必要です。
- ・地域の歴史・伝統や文化は、地域への誇りや愛着を生むきっかけとなるものです。町田デジタルミュージアムなどを活用し、子どもたちの興味・関心を高める工夫もしながら、地域の歴史・伝統や文化を学ぶ機会を充実する必要があります。
- ・本を読む市民の割合が低くなる中で、本と出会うことや文学に触れる体験を通じて、子どもや若者の創造力を高めて豊かな心を育むことが重要です。

重点
事業

14 まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実

目的

・市民が町田市の歴史や文化を大切にし、郷土に愛着や誇りをもてるよう、町田市の歴史や文化を学ぶことができる機会を充実させます。

対象 児童生徒・市民

●属性 継続／発展

●所管課 生涯学習総務課・図書館

概要

- 町田市の歴史や文化を学ぶことができるプログラムを作成し、小・中学校にPRを行って事業を実施します。
- 市民が町田市の歴史や文化に触れる機会の充実を図るため、町田市固有の歴史・文化資源を活用したアウトリーチ事業(学校、市民センター、子どもセンター等での講座や展示、各地域の歴史資源を活用したフィールドワーク等)を実施します。
- 毎年度効果を検証し、市民のニーズに沿った事業内容に更新しながら実施します。
- 町田ゆかりの作家や町田が登場する文学作品を紹介する展覧会・教育普及事業を実施します。

デマンド サイドの視点

▶児童生徒:小・中学校での歴史の授業の際に、「町田デジタルミュージアム[※]」を活用し、町田市の歴史や文化を身近に学ぶことができます。

▶市民:身近な場所でまちだの歴史を学ぶことができます。

経営の視点

▶自由民権運動の「自由」「平等」「人権」などを紹介することにより、現代社会で身近な学びとして地域に生かします。

独自性の視点

▶町田市固有の歴史や文化資源を活用します。

▶縄文時代の豊富な考古資料、自由民権運動、養蚕・製糸業などを町田市の歴史の特徴と捉え、市域の歴史を学ぶ機会を提供します。

学び続ける 力の要素

○市内の児童生徒が地域への理解を深めることで、自分が住む地域について愛着や誇りをもつことができます。

※ 町田デジタルミュージアム…インターネットを通じて町田市の代表的な考古、歴史、民俗資料を紹介するサイトのこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	
①小中学校向けプログラム件数		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	1 件	2 件	4 件	5 件	5 件	5 件	
②新規アウトリーチ事業件数（累計）		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	—	2 件	4 件	6 件	8 件	10 件	
③町田ゆかりの作家/町田が登場する 文学作品を知ってもらうための事業 の実施件数		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	3 件	3 件	3 件	4 件	5 件	6 件	

**この重点事業と
連動して推進する
関連事業**

- ・基本方針Ⅲ-施策 2-重点事業 32「まちだの歴史・文化資源の保存と活用環境の整備」P120



出張歴史授業



民俗体験講座(紙すき体験)

重点
事業

15 ことばの魅力伝える“ことばの扉”事業の推進

目的

子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また、世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め、豊かな心を育んでいきます。

対象 市民

●属性 継続／発展

●所管課

図書館

概要

- ことばや文字、文学の魅力伝え、新たな学びや学びのきっかけとなるような展覧会や教育普及事業を実施します。
- 未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力伝えるため、ジャンルにとらわれることなく近接する分野を幅広く取り込んだ事業を展開します。
- ショートショート※コンクール等の創造性を育み、創作の魅力を感じられる事業を実施します。

デマンド サイドの視点

▶市民：ゆったりとした心安らぐ空間で、日々の生活の中では得ることのできない「ひらめき」や「気づき」を伴った芸術体験をすることができます。展覧会や各種事業を通して、多様な考え方や価値観に触れることができ、豊かな心を育むことができます。

経営の視点

▶デジタル化に取り組むことでアクセシビリティを高め、より多くの人がかたば、文字、文学の魅力に触れる機会を創出します。

独自性の視点

▶多摩 26 市唯一の総合文学館として、ことば、文字、文学を柱にした事業を展開しています。

学び続ける 力の要素

○感性を刺激し、知的好奇心を喚起する事業、学びの成果を発表する事業を通して、新たな学びや自ら学ぶきっかけをつくり出します。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
① “新たな学び” や “学びのきっかけ” につながる展覧会の実施		実施	検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	実施	実施	実施	実施	実施	実施
② 若い世代（10 代・20 代）に向けた事業件数		検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	2 件	3 件	3 件	4 件	4 件	5 件
③ ショートショートコンクールへの応募作品数		ショートショートコンクール開催				
指標の達成状況 ▶	887 作品	1,050 作品	1,100 作品	1,150 作品	1,200 作品	1,250 作品

※ ショートショート…アイデアとそれを生かした印象的な結末のある、短くて不思議な物語のこと。

重点
事業

16 子ども・若者の読書活動の推進

目的

子どもや若者が多種多様な情報から主体的に必要な情報を選び、自身の考えを形成する能力を身に付けることができるように、子ども・若者の読書活動を推進します。

対象 市民

●属性 継続/発展

●所管課 図書館

概要

- 「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」を策定し、推進します。
- 読書や図書館に興味をわくようなイベントを実施し、子どもや若者が読書や図書館に興味をもつきっかけをつくります。
- 文学館では絵本や児童文学などを題材にした展覧会・イベントを開催し、絵本や物語の魅力を伝えます。

デマンド サイドの視点

▶市民:イベント等へ参加することにより、読書に興味をもつ機会が増えます。

経営の視点

▶子どもの成長に合わせた取組を行い、読書習慣が身に付くように読書活動を推進します。

独自性の視点

▶子どもや若者が読書に興味をもつように、子どもや若者自身が参画できる読書普及イベントを実施します。

学び続ける 力の要素

○子どもや若者が読書に興味をもつことにより、新たな学びや自ら学ぶきっかけをつくり出します。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」の策定と推進		計画の検討・策定	事業の推進・進捗管理			
指標の達成状況 ▶	—	策定	推進	推進	推進	推進
②若者が参画する読書普及イベントの実施件数		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	1件	2件	2件	3件	3件	3件
③絵本、児童文学、漫画を題材にした展覧会の実施		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	実施	実施	実施	実施	実施	実施

この重点事業と 連動して推進する 関連事業

- ・基本方針Ⅲ-1-重点事業 30「学校図書館の機能強化」P114
- ・基本方針Ⅳ-2-重点事業 39「地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援」P137

重点
事業

17 学びの入口の充実

目的

- ・たくさんの学びの入口を提供し、市民の活動の場を広げ、“いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち”をかなえます。
- ・学びのきっかけづくりを重視した事業展開により、生涯学習活動を行う機会をもてた市民の割合を増やします。

対象 市民

●属性 継続／発展

●所管課 生涯学習センター

概要

- 2023年2月に策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、講座事業を体系化し再編します。施策Ⅰ-5では「学びの裾野を広げる」事業として、学びに出合う「きっかけづくり」に重点を置いた入門講座の充実を図ります。
- 生涯学習センターの利用が少ない若者層や働く世代のニーズを把握し、事業を検討して実施します。

デマンド サイドの視点

▶市民：学びの入口が充実することで、学びに出合うきっかけが増えます。利用の少ない世代からのニーズを把握し事業を実施することで、若者から中年層の利用につながります。

経営の視点

▶民間活力を導入することにより、民間の優れたノウハウを生かした臨機応変な運営が可能となります。

独自性の視点

▶「入門講座」は、町田市の特性である大学等の教育機関の多さを活用するなど、民間、とりわけ教育機関との連携を強化します。

学び続ける 力の要素

○たくさんの学びの入口を提供し、市民の活動の場を広げ、“いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち”をかなえます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①「学びの裾野を広げる」事業の実施		実施	検証・検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	—	実施	実施	実施	実施	実施
②若者・中年層向け事業の実施		若者等からの意見聴取・事業の検討	若者向け事業の実施	壮年・中年向け事業の実施	検証・検証を踏まえた実施	
指標の達成状況 ▶	—	検討	実施	実施	実施	実施
③アウトリーチ事業の割合		実施	検証・検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	13.0%	15.0%	17.0%	18.0%	19.0%	20.0%

この重点事業と
連動して推進する
関連事業

- ・基本方針Ⅱ-施策3-重点事業22「学びのセーフティネットの充実」P96
- ・基本方針Ⅲ-施策2-重点事業31「生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備」P118
- ・基本方針Ⅳ-施策2-重点事業37「地域での学びの拡充」P134
- ・基本方針Ⅳ-施策2-重点事業40「学びのネットワークづくりの促進」P138

重点事業 18 学びにつなげる図書館体験

目的 市民の学びのきっかけとなるように、図書館サービスをより多くの人に体験してもらう取組を実施します。

対象 市民

●属性 継続／発展

●所管課

図書館

概要

- 自分に合った図書館の利用方法を知ってもらうための講座等を実施します。
- 本との出会いをつくるため、移動図書館によるイベントへの出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動を実施します。
- 暮らしの中で役に立つレファレンス事例を紹介するリーフレット等を作成するなど、レファレンスサービス※を身近に感じる取組を実施します。

デマンド サイドの視点

▶市民：図書館が使いやすくなることや、自分のネット検索では手に入れない情報を得ることにより、生活の質の向上が図られます。また、移動図書館によるイベントへの出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動により、本との新しい出会いが増えます。

経営の視点

▶子どもから大人まで、あらゆる世代を対象にした体験を提供できます。

独自性の視点

- ▶一日図書館員等の人気のコンテンツを活用できます。
- ▶移動図書館を3台もつ自治体は都内では町田だけで、機動性を生かした図書館体験を提供できます。
- ▶市民に寄り添ったきめ細かいレファレンスサービスを提供します。

学び続ける 力の要素

○必要な知識や情報を図書館で調べる方法を知ってもらうことにより、生涯にわたって学びを支えます。

活動指標と工程表

活動指標	現状 2022年度	工程表				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
① 図書館講座・図書館員体験の実施回数		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	8回	8回	8回	8回	8回	8回
② 移動図書館の出張運行箇所		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	8か所	10か所	10か所	12か所	12か所	12か所
③ レファレンス件数		レファレンスの実施				
指標の達成状況 ▶	3,853件	4,000件	4,050件	4,100件	4,150件	4,200件

この重点事業と 連動して推進する 関連事業

・基本方針Ⅱ-3-重点事業23「多様な図書館サービスの提供」P98

※ レファレンスサービス…利用者からの様々な調べものについて、図書館の資料や機能を活用してお手伝いするサービスのこと。